

令和 7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7 月 1 日 / 年度末 2 月 27 日
氏名	松本 秀章
子ども学科	教授
学科以外の兼務職	学長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
自然と環境	国文・子ども	1

②担任制度

担任（1 年生）		担任（2 年生）	
----------	--	----------	--

③委員会活動

運営協議会	委員長	SD 委員会	
研究倫理委員会	委員長	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員長	入学者選抜委員会	委員長
自己点検・評価委員会	委員長	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員長	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	委員長
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員長
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員長
不正調査委員会		衛生委員会	委員

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	本学の使命（教育者の養成（理念）、人間形成（建学の精神）、地域に貢献できる人材養成（学則）等）を達成することを念頭に教育研究活動に精励することを目標としている。本学は広義で教育者を養成する高等教育機関であり、我々は教育者を養成する教育者である。学生に教えるということは、自らが試されていることであると捉え、教育内容の向上及び教育者としての資質を日々研鑽するよう努めている。 また、本学の使命に加えて、教育による専門職業人及び地域コミュニティを支える職業人・社会人の養成という地方の私立短期大学としての使命を鑑み、学生が地域での実体験を通して学修成果を獲得できるよう努めると共に、学長として本学が永続的に教育研究活動を行い、地域の人材輩出を担う使命を達成できるよう、大学運営や地域連携の活動を重視している。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	学科が当該科目に指定する目標（DP）を達成させることはもちろんであるが、教育者・社会人としての資質を向上させるような知識・技能を積極的に取り入れるように努めている。また、本学が目指す人材像を鑑み、人間的な関わりを大切にしている。学生にとって学長という肩書が障壁とならぬよう、言語的なコミュニケーションに限らず、非言語的コミュニケーション（柔らかい話し方、節度をもったカジュアルな服装、笑顔を意識した表情等）を意識しながら、一教員として双方向の授業が実現できるよう工夫に努めている。
授業以外（学生支援等）	第一に、学生との交流の中で目標を達成できるよう努めている。そのために、まずは意図的に学生と関わろうとする意識、次に具体的な行動が肝要であると考えている。授業が少なく、学生と関わる機会が少ないため、対面の交流に加えて、ICTも積極的に活用している。 第二に、学生のみならず地域の方にも、授業以外において知識・技能を享受できるよう、各種の講習会を開講し、実現に努めている。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	担当した授業「自然と環境」の授業アンケートからは、学生の評価は概ね高く（各設問の平均は4.1～4.7ポイント）、特に「授業への取組」「理解の促進」「教員の説明や姿勢」に関する項目では、肯定的回答（「そう思う」「ややそう思う」）が約7割前後を占めており、双方向的な授業運営と丁寧なコミュニケーションが一定の成果を上げたものと考えられる。 DP達成に向けた専門的知識の修得に加え、教育者・社会人としての資質向上を意識した取組、人間的な関わりを大切にした授業姿勢は、一定程度学生に受け止められたと評価する。
授業以外（学生支援等）	第一に、学生との交流機会の創出については、課外活動としてキャンパインストラクター実技講習会を実施し、資格取得の有無に関わらず学生が主体的に参加できる場を設けた。実技を通じた協働的な学びと対話の機会により、学年や立場を越えた交流が生まれ、教育者として求められる実践力と人間的関係性の構築という目標の達成に資する成果があった。 第二に、地域貢献も兼ねた、チャイルドケアプラス（救急法講習会）を実施した。学生に加え地域の方にも参加いただき、子どもの安全に関する具体的な対応力を指導することができた。授業外においても専門的知見を社会と共有する機会を確保し、地域貢献と実践的学修の両立を図ることができた。

5. 目標（今後どうするか）

授業	次年度担当授業無し
授業以外 （学生支援等）	今年度授業「自然と環境」に関して授業外での質問や相談があった場合には、学生の理解がより深まるよう丁寧に対応していく。また、学修内容を実践的な力へと結びつける観点から、救急法講習会の継続的な実施についても検討し、授業外においても知識・技能を発展させる機会を確保していきたい。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

教職員の責務	学生・教職員のみならず、本学に関係するすべての方に対する言葉遣いや態度に常に配慮することを意識した。特に、自らの発言や対応に不十分な点があれば振り返りを行い、改善に努める姿勢を大切にした。 また、学長という立場の影響力を自覚し、感情的な言動によって他者に負担を与えることのないよう、冷静かつ節度ある対応を心がけた。 それら結果、教員として概ね適切な態度をもって勤務に精励できたと評価する。
学修者本位の教育	学生の理解度や関心に配慮しながら双方向的な授業運営に努めた。特に成績評価に関することは、ICTを活用した基準設定やフィードバックに注力し、学生が主体的に学びを深める工夫を行った。 その結果、学生の主体的な参加や積極的な発言が見られるなど、学修者の視点に立った教育実践は概ね達成できたと評価している。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和7(2025)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和7(2025)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和7(2025)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和7(2025)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和7(2025)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上

令和 7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7 月 1 日 / 年度末 2 月 27 日
氏名	神谷昌史
学科	国文学科
学科以外の兼務職	副学長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	国文学科	1
キャリアデザイン	国文学科	1
インターンシップ	国文学科	1
インターンシップ	国文学科	2
シティズンシップ論	国文学科	2
シティズンシップ論	子ども学科	2
日本国憲法	子ども学科	2

②担任制度

担任（1 年生）	無	担任（2 年生）	無
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	副委員長	SD 委員会	
研究倫理委員会	副委員長	地域連携委員会	
危機管理委員会	副委員長	入学者選抜委員会	副委員長
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	委員
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	副委員長
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	副委員長
教務委員会	委員	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会	委員長	紀要編集委員会	委員
学生調査委員会	委員	教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会	委員長	学長推薦選考委員会	
不正調査委員会	副委員長	衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員	担当	WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費補助金
研究種目	基盤研究 (C)
期間	2021～2025 年度
助成金額 (期間中合計)	4,160,000 円
研究課題	日中戦争期華北の未公開資料の調査・公開と総合的研究
備考 (分担者等)	研究分担者

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 学生の学習と大学生活の両面を中心に、学生支援に注力する。
個人の教育理念・目標	今年度は学科長だけでなく、副学長の職を命じられた。昨年度の学長補佐職以上に学長のサポートを行うことが今年度の第一の任務となる。日常的な業務とともに、令和8年度末の本学閉学を滞りなく行えるよう、広範な職務を行うことが今年度の第一の目標である。そのためには、教職員と常時連携していくことが重要になるため、教職員と日常的に連絡・相談・協力を行うことが第二の目標である。 今年度も国文学科長を務めることとなり、現状では令和8年度までが任期となっている。募集停止が発表されて以来、学生には不安が積みまとうケースが増えている。そうした不安を解消し、学生が学修成果を獲得して卒業できるよう、本年度の国文学科の目標は「学生の学習と大学生活の両面を中心に、学生支援に注力する」とした。この目標を達成するため、学生の状況を国文学科教員、さらには各所と共有しながら、学生支援に注力する。特に足元の国文学科について、教員を組織的にまとめることが昨年度も課題であったが、今年度はより一層まとめられるように取り組んでいく。 一教員としては、授業や担任、その他さまざまな側面で学生とかかわる機会が少ないため、教職員と情報共有を密にし、直接かかわる場合に遺漏なく支援ができるようにしたい。また授業の改善を引き続き図り、少しでもよい授業を行いたい。

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	①授業内容の研究と改善 担当科目数が減少したことにより、各科目について授業内容をより精査し、学生の理解度に応じた説明ができるよう改善に努めた。特に「シティズンシップ論」については、これまでの授業実践を踏まえつつ、近年の民主主義論やシティズンシップ論に関する研究成果を参照し、学生にとって身近な、あるいは考えるべき事例を取り入れながら講義内容を構成した。また「キャリアデザイン」では、進路意識の形成を目的として、具体的な事例紹介や作業課題を取り入れた。 ②教授方法の工夫 講義形式だけでなく、作文課題やディスカッションを取り入れることで、学生が自らの考えを言語化する機会を設けた。「シティズンシップ論」では、型作文の形式を用いて段階的に意見を整理できるようにし、それをもとにディスカッションすることで、多様な視点に触れられるようにした。また「キャリアデザイン」では、学生の理解度を確認しながら進行し、必要に応じて個別に補足説明を行った。
授業以外 (学生支援等)	①学生支援と情報共有 副学長および学科長として、教員および学務課教務係、学生支援担当職員等と日常的に連絡を取り、学生の出席状況や学習状況、生活面での課題について情報共有を行った。閉学が予定されている状況のなかで、不安を抱える学生も多いため、学生が安心して学修を継続できるよう、必要に応じて個別対応を行った。 ②学科および大学運営への対応 副学長として、学長の補佐を行い、各種会議や委員会その他を通じて学内運営に関わった。特に閉学に向けた準備に関連する事項について、教職員との連絡・調整を行い、教育活動および学生支援が滞りなく継続できるよう努めた。また学科長として、学科教員間の情報共有を促進し、学生対応を組織的に行えるよう調整した。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	①授業内容の改善の成果 授業内容を精査し、学生にとって理解しやすい事例を取り入れたことにより、授業内容への理解を一定程度深めることができた。「シティズンシップ論」では、学生が社会や政治に関する問題について自らの意見を文章としてまとめることができるようになり、授業の目的である主体的な思考力の育成に一定の成果が見られた。 ②教授方法の工夫の成果 作文課題を継続して取り入れたことにより、多くの学生が一定の形式に従って自らの考えを表現できるようになった。また少人数授業の特性を活かし、学生の理解状況に応じた対応を行うことで、授業への参加を促すことができた。
授業以外 （学生支援等）	①学生支援の成果 学科教員および学務課職員との連携により、課題や不安を抱える学生の状況を把握し、必要な支援を行うことができた。特に閉学に伴う不安を抱える学生に対して、教職員が連携して対応する体制を維持することができた。 ②大学および学科運営への対応 副学長として学長の補佐を行い、学内の各種業務に対応することで、大学運営の円滑な実施に寄与することができた。また学科長として、学科教員間の連絡調整を行い、学生支援および教育活動を継続的に実施する体制を維持することができた。

5. 目標（今後どうするか）

授業	引き続き各授業について内容および方法の改善を行い、学生の理解を深められる授業を実施する。特に「シティズンシップ論」については、学生が自らの考えを表現する機会を確保し、提出された文章に対して適切な指導と助言を行う。また担当科目が限られている状況を活かし、一つ一つの授業をより丁寧を実施する。
授業以外 （学生支援等）	閉学を控えた状況において、学生が安心して学修を継続し、学習成果を獲得して卒業できるよう、学科教員および学務課職員等との連携をさらに強化する。また副学長として、学長を補佐し、閉学に向けた各種業務を適切に遂行するとともに、教育活動および学生支援が最後まで円滑に実施されるよう努める。

6. 記載内容に関する根拠資料

- | | | |
|--------------|----------|-----------|
| ①令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | シラバス |
| ②令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 科目別成績分布状況 |
| ③令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 担任一覧表 |
| ④令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 委員会構成名簿 |
| ⑤令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 組織図 |

以上

令和 7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7 月 1 日 / 年度末 2 月 27 日
氏名	池田大輔
学科	国文学科
学科以外の兼務職	湖国カルチャーセンター長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
日本史概論	国文	1
基礎力プログラムⅠ	国文	1
古典文学講読Ⅰ	国文	1
古典文学講読Ⅱ	国文	1
基礎ゼミ	国文	1
ゼミⅠ	国文	2
ゼミⅡ	国文	2
基礎力プログラムⅢ	国文	2
基礎力プログラムⅣ	国文	2
ボランティア	国文	2

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	委員	SD 委員会	
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員長	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	委員長
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	担当

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 学生の学習と大学生活の両面を中心に、学生支援に注力する。
個人の教育理念・目標	本学科のアドミッション・ポリシーに基づき入学してきた学生に対し、カリキュラム・ポリシーに従って、ディプロマ・ポリシーの達成実現へ向けた教育活動を行っていく。特に日本古典文学の授業を中心に担当しているので、学生には時代を超えて普遍的な価値を持つ言語表現について自覚させ、日本人のアイデンティティや人間の根本的な課題を探究する方法や機会を提示し、自己価値・判断力・言語化能力の涵養を目指す。その際に、発問や対話を重要視し、己の知識をもとに主体的思考を形成できるような授業展開を心がけていく。 また、学生には日常的に自己の考え文章化することを課し、教員が添削、見直しすることで、誰もが納得できる言語化能力を習得できるよう指導していく。国文学科で学んだ社会人として、恥ずかしくない素養と言語力を発揮できるよう学生を導くことを心掛ける。 少人数教育という特長を活かし、学生には日常的に挨拶や声がけを心がけ、学生との信頼関係を構築するとともに、体調や感情の変化に気が付けるように努める。昨年度より設けられた「スチューデントアワー」には、積極的に学生と関わりを持つようにすることで、学生が日常的に、何か相談事があったときに話しやすい関係の土台を築くよう努める。 本学国文学科最後の卒業生となる学生にとって、少しでも多くの経験と今後の糧になるような貴重な学びと体験の学習機会を提供できるよう尽力する。 ＊本学科のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについては、本学ホームページを参照してください。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	1. 「古典文学講読Ⅰ」における ICT 活用（国文学科 1 年） 授業は『万葉集』を取り上げ、受講生が 2 名と少なかったため、図書館 3 階で講義を行い、講義資料は毎回配布し、適宜図書館資料を活用して進めた。また、Google Classroom をプラットフォームとして、「課題（リアクションペーパー）」を毎回、授業内容として公開した。「リアクションペーパー」の中での意見は、次の授業冒頭で振り返りを兼ねて共有した。 2. 「ゼミⅠ・Ⅱ」におけるフィールドワーク（国文学科 2 年） 授業は、1 年次に学習した『源氏物語』と「変体仮名」を活かした演習形式で、学期レポートは A3 用紙 1 枚のキャプションボードを作成してもらい、研究室前に展示している。フィールドワークは、源氏物語ミュージアム（京都府宇治市）・石山寺（滋賀県大津市）・紫式部公園／紫ゆかりの館（福井県越前市）と広範囲わたって実施した。
授業以外 （学生支援等）	1. 担任面談 1 年生 5 名、2 年生 2 名を担当。春学期・秋学期の最初と最後に実施する担任面談では、1 年生は大学生活への慣れ、定期試験への準備と感想など大学生活における不安要素の確認を中心に行った。2 年生は、就職活動の進捗状況を中心に、相談やアドバイス等の支援を行っ

	た。 2.スチューデントアワー 本年度は、研究日と重なったために積極的に学生と関わり交流の時間を確保できなかった。参加できるときは、積極的にイベントなどに参加する。
--	--

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	1.「古典文学講読Ⅰ」における ICT 活用（国文学科 1 年） 受講人数が少なかったということもあり、毎回「リアクションペーパー」が提出されていた。また、何かあれば配点とは関係なく記入する欄を設けていたので、質問や相談を受けるなど活用することができた。 2.「ゼミⅠ・Ⅱ」におけるフィールドワーク（国文学科 2 年） フィールドワークの参加度は高く、学習面だけではなく地域での活動を楽しんでいる様子が窺えた。授業アンケートの結果では、100%の受講生が目標達成でき、興味関心を持ち、理解できたと回答していた。授業アンケートでは、全ての項目においても100%以上（非常にそう思う、そう思う）、「フィールドワークも楽しかった」「少人数で色々気楽な空気で授業を受けられたのが良かった」と満足度が高い授業であったと思われる。
授業以外 （学生支援等）	1.担任面談 他県より通学する学生もいるが、1・2年生ともに失単位する者もおらず無事に1年を終えることができた。2年生は、1名就職活動中であるが他4名は全員が就職内定となった。 2.スチューデントアワー 研究日と重なったため、活用することができなかった。

5. 目標（今後どうするか）

授業	授業アンケートなどから、好評かを得ているので、引き続き「リアクションペーパー」や分かりやすい授業、評価のブラッシュアップを行って柔軟に対応実施していく。グループワークの需要に関しては、全員がコミュニケーションを取り合い、協働力を高められるよう目を配り、ファシリテートしていくよう心掛ける。
授業以外 （学生支援等）	担任面談では、引き続き学生の学生生活、就職の支援を行っていく。また、日ごろから学生の様子に目を配り、心地よい学生生活を送れるようサポートしていく。

6. 記載内容に関する根拠資料

- | | | |
|--------------|----------|-----------|
| ①令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | シラバス |
| ②令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 科目別成績分布状況 |
| ③令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 担任一覧表 |
| ④令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 委員会構成名簿 |
| ⑤令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 組織図 |

以上

令和 7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7 月 1 日 / 年度末 2 月 27 日
氏名	井上 勝
国文学科	准教授
学科以外の兼務職	図書館長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	国文	1
基礎力プログラムⅡ	国文	1
情報資源組織論	国文	1
情報資源組織演習Ⅰ	国文	1
情報資源組織演習Ⅱ	国文	2
情報サービス論	国文	1
情報サービス演習Ⅰ	国文	2
情報サービス演習Ⅱ	国文	2
図書館サービス概論	国文	1
ボランティア	国文	2
学校図書館メディアの構成	子ども	2

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	委員	SD 委員会	委員
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	委員
図書委員会	委員長	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	委員長
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	委員

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 学生の学習と大学生活の両面を中心に、学生支援に注力する。
個人の教育理念・目標	基本的な姿勢として、本学の教育理念、建学の精神に基づき、個々の学生が社会人として、また、職業人として、調和のとれた人間形成を行っていくための支援を確実に行っていく。 滋賀県内で唯一の司書養成課程を持つ本学への社会的要請に応えるべく、県内及び周辺地域の図書館と情報を密に、連携を進めるとともに、現場で求められる司書となるべく、実務的な能力を身につけるとともに、困難に直面したとき、適切な判断ができるよう、よって立つべき基本的な考え方、理論も伝えていく。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	司書養成のための司書資格に関する授業において、基本的な理論を伝えていくに際して、30年余の実務経験を踏まえ、現場ではそれらをどう展開し、活かしていくのかを説明し、自身が実際に図書館現場に立った時、どのような司書でありたいか、どのような図書館としていきたいかということを年間に2～3回考えて文章化させた。また、本を読むこと、公立図書館を見学することや、本屋・古本屋を訪れること、展覧会やコンサート等の文化事業に参加することを勧め、基本データをまとめることやその感想を文章化することを行わせた。 私自身が滋賀県・福井県・岐阜県・愛知県などの図書館をできるだけ実際に訪れ、施設や実際に行われている図書館サービスを確認し、インターンシップや図書館見学の受け入れが可能か等について調査を行い、それらの情報を授業等において学生に還元した。
授業以外 （学生支援等）	学校生活になじめない学生、慣れない1人暮らしや、授業を受けることに困難を感じている学生から具体的に困っている事を聞き取り、問題点をときほぐしながら、学生に寄り添い、その困難を一つ一つ解決すべく話し合った。 就職活動について、図書館司書の採用を中心とした情報を提供するとともに、地方公共団体の受験、図書館司書の採用試験等に際して、書類の書き方、面接時の答え方等を模擬的な形で行う等実践的な対応を行い、受験時の不安感をやわらげるようにアドバイスを行った。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	学生の授業理解、図書館サービスの実際像の構築において、理論のことばだけでは、入っ ていきにくい知識を具体的なことがらとして整理し、実感として受け入れることにより、 徐々に、具体的なイメージを伴う図書館司書像を描けるようになっていった。 学生自身の中での司書像を、より上手に文章化できるようになっていった。 結果的には、滋賀県内の図書館2館で各1人、計2人ではあるが、図書館でのインターン シップを実施することができ、地域の図書館をより身近に感じ、図書館で働くイメージをよ り具体的に持つことができるようになっていった。
授業以外 （学生支援等）	すべての授業において、すべての学生が溶け込むことは残念ながらできなかった。結果的 に、学校生活に馴染めないことによる不登校、退学者が出てしまった。また、特に1年生の 授業出席状況は芳しくなかったが、出席不足による単位未取得という事態は避けることがで

	きた。 就職活動においては、昨年度に引き続き、現役生に、図書館司書の専門職採用される学生があった。また、正職員採用には至らなかったが、正規職員を目指し、図書館現場で、会計年度任用職員として、採用された学生もいた。
--	---

5. 目標（今後どうするか）

授業	2年生の授業のみとなる来年度、昨年度及び今年度同様、1年生で積み上げてきた図書館および、司書についての知識をより深め、また、実践的なものとするべく、演習的な要素を増やし、ディスカッションや発表というアクティブな学びの要素を加え、現場での対応力をつけるための図書館現場の情報を授業で活かせるように、現物の提示や映像によるイメージ化等、より工夫を凝らしていく。 私自身が、学生の出身地及び、その周辺の図書館を、昨年度及び今年度同様に、引き続き訪問し、学生と実際の図書館の施設、サービスについて語り合えるようにしていきたい。また、気軽に現場の情報を尋ねられるような関係を築ける図書館を増やし、その情報を学生に提供し、実績を積み重ねていきたい。
授業以外 （学生支援等）	今年同様、学生に寄り添い、学生生活に支障が出ないようにサポートしていくと共に、私自身も支援する力のスキルアップのために研修受講等の自己研さんに努めていきたい。 具体的には、学生が、社会にでていくためのサポート、就職支援につとめたい。公務員採用、図書館司書の採用に関する情報収集につとめ、今年度まで同様に、書類作成のアドバイス、模擬面接を行う等、より実務的に今までの私自身のキャリアを活かした就職サポートに努めていきたい。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 7(2025) 年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 7(2025) 年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 7(2025) 年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 7(2025) 年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 7(2025) 年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和 7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7月 1日 / 年度末 2月 27日
氏名	有山 裕美子
学科	国文学科
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
学習指導と学校図書館	子ども	2
学校経営と学校図書館	子ども	2
情報メディアの活用	子ども	2
読書と豊かな人間性	子ども	2
基礎力プログラムⅠ	国文	1
基礎力プログラムⅢ	国文	2
基礎力プログラムⅣ	国文	1
図書館情報技術論	国文	1
図書館情報資源論	国文	1
ゼミⅠ・Ⅱ	国文	2

②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員長
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会	委員	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	委員長
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	担当
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	☒ 有・無
助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費助成事業
研究種目	基盤研究 (B)
期間	令和 5 年 4 月～令和 9 年 3 月
助成金額 (期間中合計)	14,430 千円
研究課題	学校教育とデジタルアーカイブを結ぶ学習内容 LOD を用いた架け橋モデルの設計
備考 (分担者等)	分担者

外部資金獲得	☒ 有・無
助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費助成事業
研究種目	基盤研究 (B)
期間	令和 6 年 4 月～令和 10 年 3 月
助成金額 (期間中合計)	18,460 千円
研究課題	校長含む教職員の著作権知識や経験値等の実態分析に基づく個別最適な著作権研修の構築
備考 (分担者等)	分担者

外部資金獲得	☒ 有・無
助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費助成事業
研究種目	基盤研究 (C)
期間	令和 7 年 4 月～令和 11 年 3 月
助成金額 (期間中合計)	4,420 千円
研究課題	学校図書館を中心とした雑誌活用教育 (MIE) の実証的研究：日米英を対象として
備考 (分担者等)	分担者

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 学生の学習と大学生活の両面を中心に、学生支援に注力する。
個人の教育理念・目標	本学の教育理念及び、建学の精神に基づき、「教育者を育てる教育者」として日々学び、自己研鑽につとめるとともに、学生ひとり一人の課題や学びに寄りそう、きめ細やかな指導をおこないます。 また、学生の理解が深まるような授業の工夫、改善につとめ、社会に出た時に役に立つような実践的なカリキュラムの実践を目指す中で、授業内容を工夫し、魅力ある授業を実践するとともに、それらの成果を外部に向けて発信していくよう努力していきます。また、積極的に自己研鑽に努め、その成果を学外での研究発表や論文投稿で発信していくことにより、本学における実践や研究の成果を公開していきます。

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	昨年同様、ほとんどの授業でテキストを指定したので、予習・復習の点も考慮しながら、テキストに沿った形で毎回の授業を組み立てました。授業毎にスライド等を用意し、学生の
----	---

	理解が深まるように工夫しました。また、昨年度に引き続き授業毎のリアクションペーパー提出を課したのですが、毎回到振り返りをしっかりと行う学生が多かった印象です。まとめの形としてリアクションペーパーの提出を課することで、より知識や技能の習得、定着が図れるのではないかと感じています。リアクションペーパーの活用は、授業ごとの状況を振り返ることができるので、とても遊ばせたいと思っています。今後も活用していきたいです。 講義内での発表やレポートなどは、主体的かつ意欲的に行われていて、発表方法はもちろんその創造性も高く評価できるものになっています。来年度も可能な限りアクティブラーニングを取り入れていきたいと思っています。ICT 活用の場面も、それぞれ工夫していて使いこなしている様子が見えます。AI の活用は、今後も課題になってくるかと思っています。
授業以外 (学生支援等)	個人的なことを相談してくれる学生もいて、話しかけやすい状況にはあったのではないかと思います。就職相談をしてくれる学生も増え、面接練習等も随時行うようにしました。今年は、担任した学生の中に、通常よりもかなり多い回数の面談が必要となるケースがありましたが、こうした対応を含め、個々の学生に応じた対応は、今後も必要になってくるかと思っています。 また、地域への貢献として、都道府県等の読書推進計画策定に積極的にかかわるとともに、特に滋賀県内の関連機関（滋賀県教育委員会や県内図書館、地域の団体など）と関係性をつくるようにしました。さらに、プラットフォームを活用した講座を1件実施、地域住民の方の学修機会を提供できました。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	昨年度に引き続き、より実践的な講義の中で社会人としての力をつけていけるように促すとともに、演習や発表、グループワーク等も多数取り入れながら主体的・協同的な学びを支援していくことで、実践的な学びを提供できたのではないかと思います。また、学生一人一人の理解度、習熟度にも配慮しながら、きめ細やかな指導を目指すことができたと思います。が、学生によっては十分でなかった点もあったかと思っています。
授業以外 (学生支援等)	今後も、より細かな学生支援を行っていききたいと思います。また、就職活動に向けても随時支援を行っていきます。

5. 目標（今後どうするか）

授業	ひとり一人の学生を尊重し、それぞれが抱える課題等に適切に対処することを常に心がけてきましたが、特に授業においては、受講の様子やリアクションペーパーなどでの理解度等を意識しながら進め、また就職相談等においては、真摯に向き合うとともに、社会に出た時に困らないように丁寧に対応することが重要であると考えています。多感な時期の学生への適切なコミュニケーションの取り方は難しい面もありますが、まずはひとり一人の学生の理解度や興味関心等に留意しながら、学力や理解度を最大限伸ばしていくことができるように、今後も心がけていきたいと思っています。
授業以外 (学生支援等)	学生の規範になれるよう、常に学ぶことを心掛け、進んで研究会や学会に参加し、研究するとともに論文等の執筆も可能な限り行うようにし、自身の研究テーマや活動が見える形にしていくことを今後も継続していきます。また、研究成果も含め、今後も、外部に向けても積極的に発信をしていきたいと思っています。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和 7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7 月 1 日 / 年度末 2 月 27 日
氏名	吉田大輔
学科	国文学科
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
文章表現	国文	1
日本文学史	国文	1
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	国文	1
子どもと文学	国文	2
ジェンダーと文学	国文	2
ゼミⅠ	国文	2
基礎ゼミ	国文	1
基礎力プログラムⅡ	国文	1
近現代文学講読Ⅱ	国文	2
文学と地域	国文	2
ゼミⅡ	国文	2

②担任制度

担任（1 年生）	1 名	担任（2 年生）	5 名
----------	-----	----------	-----

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	委員
研究倫理委員会		地域連携委員会	委員長
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	委員
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会	委員	授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ ☒ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 学生の学習と大学生活の両面を中心に、学生支援に注力する。
個人の教育理念・目標	【授業に関して】「類似」（似ている）を発見する力を鍛えたい。 人間の思考は、4つの要素に分割して捉えられる。4つとは、「抽象」（まとめると）「具体」（たとえば）「類似」（似ている）「差異」（違う）である。これらの要素を事象に即して展開できる力が思考力なのだと考える。このうち、高校までの学校教育において、ものごとを抽象化する力と緊密な関係があるにも関わらず、もっとも育てられる機会が少ない能力は、「類似」を発見する力である。このような認識に基づき、さまざまなレベルでの「類似」を発見させる力を養い、生物学で言う「相同」（見た目は違うが本質は同じ）と「相似」（見た目は似ているが本質は違う）をさまざまな事象に対して発見できる力を涵養したい。 【授業以外に関して】アイディアを複数出せるように支援したい 授業以外では、自身のおかれた環境と自身の願望・志向とを折衷させながら、状況に対して複数のアイディアを自分自身で思い付き、検討し、最良のアイディアを実行できる学生を育てることを目標にする。こうした目標を持って、学生の相談に乗るなどの支援を行いたい。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	今年度の筆者の担当授業のうち、「基礎力プログラムⅠ」（国文1年・春学期）「基礎力プログラムⅡ」（国文1年・秋学期）「基礎ゼミ」（国文1年・秋学期）などの他の教員と連携して行った授業では、例年通り、高校までの学びを大学への学びへ発展させ、国文学科学生に必要な力を総合的に育成していくよう努めた。「基礎力プログラムⅠ」では大学での主体的な学びに必要な基礎知識を教授したうえでグループ発表を行ってもらい、知識を確実なものにし、他者と協働する力を育成しようとした。「基礎力プログラムⅡ」では、地域で働く大人にインタビューを行ってもらい、それらを記事にまとめていくことによって、コミュニケーション能力と文章作成能力、職業意識の向上などに総合的につなげていくよう心掛けた。「基礎ゼミ」では、個人発表の力を育成することを目指し、文学作品をナラトロジーの観点から分析する課題へ取り組ませ、2年次のゼミへと繋がるようにした。 筆者が単独で担当した授業、「文章表現」（国文1年・春学期）「日本文学史」（国文1年・春学期）「ゼミⅠ」（国文2年・春学期）「子どもと文学」（国文2年・春学期）「ジェンダーと文学」（国文2年・春学期）「近現代文学購読Ⅱ」（国文1年・秋学期）「ゼミⅡ」（国文2年・秋学期）「文学と地域」（国文2年・秋学期）では、上述の類似を発見する力を伸ばす展開を心掛けた。 「文章表現」では、類似の発見がものごとを抽象化する力と密接な関係にあるという認識のもと、抽象化する力と具体化する力を育成する課題を多く考え、実践した。「日本文学史」では、日本近代文学の成立をめぐる「近代」と「日本」をめぐる多くの言説に共通のものがあることに気づかせるように留意した。「ゼミⅠ」では、一人の学生に何らかの類似が見られる2つの作品を担当してもらうことで、共通の問題点を発見してもらうようにした。「子どもと文学」では、「イソップ寓話」から類似の問題を抽出し、絵本を作成してもらった。「ジェンダーと文学」では、1900年前後の複数の小説に同時代の性的言説が見られ
----	--

	るという類似を学生が発見できるよう展開した。「近現代文学購読Ⅱ」では、別の漱石作品に見られる類似主題へ言及しながら「三四郎」を購読するようにした。「ゼミⅡ」では、なにかとの比較の観点を重視しながら文学作品の個性を発見してもらうよう指導した。「文学と地域」では、織田作之助の作品を集中的に読むことで、彼が描いた関西像の共通性を考えた。 上記すべての授業で独自教材として多くのプリントを作成・使用し、リアクションペーパーを用い、学生の理解や関心、質問などを把握しつつ、授業を展開した。
授業以外 (学生支援等)	特にゼミ生や担任学生とは日常的に学習・大学生活・就職などの相談に乗り、文章添削などを多く行った。その他、授業内外で、ゼミ生や担任学生以外の学生からの相談にも多く乗った。キャリア支援関連のイベントなどにも注力した。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	他の教員と連携して行った授業「基礎力プログラムⅠ」「基礎力プログラムⅡ」「基礎ゼミ」では、いずれも受講生の多くは真摯に取り組んでくれ、所期の目標の達成は果たせたと考えている。一方で、本年度の国文学科1年生は7名と少人数で、「基礎力プログラムⅠ」のようにグループワークを行う授業ではグループの数が少なくなってしまい、グループ間での切磋琢磨の空気にやや欠け、こうした点に授業運営の難しさを感じた。 筆者が単独で担当した授業、「文章表現」「日本文学史」「ゼミⅠ」「子どもと文学」「ジェンダーと文学」「近現代文学購読Ⅱ」「ゼミⅡ」「文学と地域」では、上述の類似を発見する力を育成した。特に、「子どもと文学」「ゼミⅡ」では、熱心に取り組み、こちらの所期以上のレポートや成果物を完成させた受講生がほとんどだった。「子どもと文学」のイソップ寓話から絵本を作る課題や、「ゼミⅡ」での学生の主体的な調査によるレポート作成課題では、例年通りなるべく懇切に助言を行い、学生たちからも自身の成長を実感したという声が多く聞かれた。一昨年度、昨年度に引き続き「子どもと文学」で作成した絵本は、学生たちの許可を得て図書館で展示を行い、外部化するようにも努めた。 授業のリアクションペーパーやアンケートの反応も悪くなく、いずれの授業でも学生はおおむね積極的に取り組んでくれた。一方で、上述のように今年度の1年生は2年生に比べて人数が少なく、切磋琢磨の空気がやや薄くも感じられた。その空気を変えようといろいろ働きかけ改善も見られたが、雰囲気が大きく変わったというまでには至らなかった。
授業以外 (学生支援等)	ゼミ生や担任学生を中心として、学生が相談しやすい雰囲気は十分に構築できたと考えている。就職に際しての文章添削などの相談を受けたことも多く、具体的な文章への助言などを含めて、学習・就職活動いずれの面でも支援できたと思う。

5. 目標（今後どうするか）

授業	個人の教育理念・目標としている「類似を発見する力の育成」を念頭に実践を継続していきたい。この力を身に着けるための授業方法や教材をさらに考えたい。今年度で筆者は本学を退職するが、来年度以降の勤務先でもこの発想を取り入れて教育を行っていきたい。
授業以外 (学生支援等)	上述のように筆者は今年度で本学を退職するが、勤務先が変わっても、学生の多くが相談しやすい雰囲気を構築し、困難への対処を支援していきたい。そうした態度を基本としつつ、レポート以外の文章も含め、ライティング指導に力をいれていきたい。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和 7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7 月 1 日 / 年度末 2 月 27 日
氏名	伊藤 孝子
子ども学科	学科長、教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
キャリアデザイン（子）	子ども	1
社会科概論	子ども	1
社会科教育法	子ども	1
家庭科概論	子ども	2
家庭科教育法	子ども	2
保育内容総論	子ども	1
教職実践演習（幼・小）	子ども	2
幼児と健康	子ども	2
幼児と環境	子ども	1

②担任制度

担任（1 年生）	無	担任（2 年生）	無
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	委員	SD 委員会	
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	委員
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員長
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会	委員長	紀要編集委員会	委員
学生調査委員会	委員	教職実践演習運営委員会	委員
教学調査委員会	委員	学長推薦選考委員会	副委員長
不正調査委員会	委員長	衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	・保育や教育に関わる専門的な知識や技能が身に付くよう、授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れるなど学生の主体的・体験的な学びを推進し、理論と実践の往還に努める。また、体験的な学びを言語化する場を工夫する。 ・コミュニケーション力や協働力を高めるために、グループワークや発表などの機会を重視し、実践力の育成に努める。 ・学科長として、大学の教育方針、子ども学科の理念・目標等を踏まえ、円滑な運営が行えるよう、学科内の情報の共有や協議の充実を図る。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	①学生の専門性、知識・技能の向上 担当する授業において、グループディスカッションやロールプレイ等の体験的な学びを取り入れるなど、授業改善に努める。 ②学生のコミュニケーション力・協働力の向上 小グループによる事例検討等、ディスカッションの機会を多く設定する。他者の考えを聞くことで自分の考えを整理したり、新しい発見が生まれたりする経験を大切にすること。 キャリアデザインの授業では、学生に自分の将来について考えさせ、将来のイメージに近づくために何をすればよいのか、グループワークやプレゼンテーションなどを通して明らかにする。
授業以外 （学生支援等）	①学生支援 保育・教育職を志望する学生の就職活動において、希望する学生の面接指導や実技指導等を行う。 ②委員会活動等 子ども学科長という立場から、大学の教育方針を踏まえ、計画的に学科会議を開催する。 ③研究活動・社会活動等 幼児教育や幼小連携・幼小接続に関する研修会・研究会等に参加し、専門分野の最新の状況を把握し、それらを学生に伝えるなど、学生支援に役立てる。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	①学生の専門性、知識・技能の向上 授業では、専門的な保育・教育内容を学生が理解しやすいように、毎時間の授業プリントを工夫した。各時間の提出物（プリント等）には、コメントを書いて学生にフィードバックするように努めた。また、保育・教育現場で役立つ体験を授業の中に取り入れた。授業アンケートの結果からも、学生の知識・技能が向上していることを確認できた。 ②学生のコミュニケーション力、協働力の向上 授業では、アクティブ・ラーニングを意識して授業を行った。特にグループでのディスカッションやロールプレイ等を多く取り入れ、学生が主体的に学べるように工夫した。 キャリアデザインの授業では、社会で求められるスキル（課題解決力・コミュニケーション
----	--

	ン力・主体性・自主性・社会性・協働力など）について、体験やグループワークなどを通して向上を図った。学生からも、グループワーク等を通してコミュニケーション力や協働力が向上したとの声が聞かれた。
授業以外 (学生支援等)	①学生支援 保育・教育職を志望する学生の就職活動において、希望する学生の面接指導や実技指導、小論文指導等を学生支援担当課と連携して行い、公務員試験（幼児教育職）合格や私立園への就職内定に貢献した。 ②委員会活動等 子ども学科長として、大学の教育方針を踏まえ、計画的に学科会議を開催し、協議の充実を図るとともに、共通理解を図り、学生への伝達や指導の一貫性を確保するよう努めた。 ③研究活動・社会活動等 滋賀県内の公立幼稚園・認定こども園・保育所等の研究会で研修講師を務め、専門分野の最新の状況を知るよう努めた。 研究会や園内研究会での学びを踏まえ、学生に幼児教育や幼小連携・幼小接続等についての情報提供や助言を行った。

5. 目標（今後どうするか）

授業	
授業以外 (学生支援等)	

6. 記載内容に関する根拠資料

- | | | |
|--------------|----------|-----------|
| ①令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | シラバス |
| ②令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 科目別成績分布状況 |
| ③令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 担任一覧表 |
| ④令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 委員会構成名簿 |
| ⑤令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 組織図 |

以上

令和 7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7 月 1 日 / 年度末 2 月 27 日
氏名	平井 敏孝
子ども学科	教授
学科以外の兼務職	学生サポートセンター長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	子ども	1
教育制度論	子ども	1
教育実習指導（小）	子ども	1
教育実習指導（小）	子ども	2
理科教育法	子ども	1
生活科概論	子ども	2
生活科教育法	子ども	2
教育と ICT 活用	子ども	2

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	委員	SD 委員会	
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	副委員長
学生委員会	委員長	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG	センター長	教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会	副委員長	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	○
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	各講義において、学生が「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう、学生の資質や能力に合わせた言語活動や観察・実験、問題解決的な学習活動を工夫する。少人数の場合では、体験活動と言語活動を重視し、多人数の場合では、グループなどで対話する場面や学習を繰り返す場面を継続的にを行い、主体的に学ぶことの楽しさと充実感を実感させる。また、教員からの評価の場をできるかぎりとするようにし、成長を実感させるとともに、課題や次の目標を明確にさせていきたい。 学生サポートセンター長として、関係職員間での連携や情報共有を密に行うこと、学生へのサポートについては、関係課・各学科の先生方との連携を図り、効果的に関わられるようにすることを重点として取り組んでいく。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	本年度も、どの授業においても、演習や問題解決的な学習の場を多く取り入れることができた。具体的には、グループでの活動や協議、交流の時間を、90分の授業の中に意図的に組み入れ、存在感や授業への参加意識が持てるようにし、主体的に学ぶことの楽しさを実感させるように努めた。 小学校教諭養成コースの学生は少人数であることから、個々人との対話を重視し、それぞれの課題や目標にあった内容や学校現場に直結した内容を準備し体験的な学習を進めるよう工夫した。
授業以外（学生支援等）	学生委員会委員長・学生サポートセンターの長として、各会議を1回ずつ開催し、情報交換や個別の対応についての協議の充実を図った。また、運営協議会等での報告や関係課と連携を図り、情報の共有や迅速な対応ができる組織になるよう努めた。 また、小学校教員養成課程の学生については、地元の学校への就職について関係機関との連携を図りながら進めている。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	話し合い活動やグループ活動に意欲的に取り組める姿勢を育てることを目標にし、授業開始当初から積極的にグループワークや話し合い活動、全体での表現活動を取り入れるようにし、それぞれの場面で、具体的な評価を示し、より高い目標を持たせるように努めてきた。 結果としては、話し合い活動の進め方だけではなく、限られた時間内での発表の仕方や、わかりやすい表現方法等、回を重ねる中で成長を感じる姿が見られるようになった。 学生からは、自らの成長を感じるという内容や、話し合い活動への苦手意識が薄らいだといった感想が寄せられ、個人差はあるが、大学での学びに少し自信が持てたように感じた。今後は、こうしたアクティブラーニングを主に置きながら、必要な知識を丁寧に伝え、それらを活用していける力を育てること、また、系統的にこうした学びをつなげていくことが大切と感じたところである。
授業以外（学生支援等）	学生委員会・学生サポートセンターの運営においては、学生の情報の共有が何よりも大切であり、その後の早い対応や指示が求められていると考えている。本年度については、合理

	的配慮が 必要と思われる学生が在籍していたこともあり、具体的な対応について協議を行い、より望ましい進路決定へと導くことができた。
--	---

5. 目標（今後どうするか）

授業	模擬授業等を行う授業については、少人数の授業であることから、計画の段階できめ細かな指導を行い、様々な考えに触れさせるようにし、模擬授業やその後の研究協議において学生の交流が活発化するよう心がけていきたい。 多人数の授業においては、引き続き90分の中に交流や学生間で学びあう場を設定し、様々な人との意見交流を経験させることを大切にしたい。その上で、多様な考えや技術を身に着け、学びを実感させていきたい。また、発表や表現活動に対しては、指導者側が適切な評価を伝えることで、次の目標を持たせるとともに、主体性を伸ばしていきたい。
授業以外 （学生支援等）	学ぶことが楽しいと実感し、主体的に学ぶ学生の育成には、何よりも本人の学ぶ意欲や資格を取る、卒業をするといった強い意志が必要である。こうした気持ちは入学後においても育てていくことが重要であり、面談や普段の生活の中での交流において、職員の共通理解を図るとともに、個々への声かけや支援の充実に努めていきたい。 このことは、学生支援の場においても重要であり、共有した事柄や情報については、本人の了解のもと関係者と共有するなどして、支援を求める学生の学ぶ意欲の向上に寄与していきたい。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和7(2025)年度

滋賀文教短期大学

シラバス
- ②令和7(2025)年度

滋賀文教短期大学

科目別成績分布状況
- ③令和7(2025)年度

滋賀文教短期大学

担任一覧表
- ④令和7(2025)年度

滋賀文教短期大学

委員会構成名簿
- ⑤令和7(2025)年度

滋賀文教短期大学

組織図

以上

令和 7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7 月 1 日 / 年度末 2 月 27 日
氏名	大橋英子
子ども学科	教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
保育実習Ⅰ	子ども学科	1
保育実習指導Ⅰ	子ども学科	1
保育実習Ⅱ	子ども学科	2
保育実習指導Ⅱ	子ども学科	2
乳児保育Ⅰ	子ども学科	1
乳児保育Ⅱ	子ども学科	1
幼児と言葉	子ども学科	1
保育内容「環境」	子ども学科	1
子ども家庭支援論	子ども学科	2
絵本の世界Ⅰ	子ども学科	1
絵本の世界Ⅱ	国文学科	1

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	委員長
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会	委員	紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長	担当	小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
--------	-------

助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	・倫理観に裏付けされた専門的知識・技能を身に付け、保育現場で求められる実践的指導力のある保育者を養成していけるように理論と実践の往還を意識した授業を行う。 ・保育者としての責務を理解し、他者と協働・連携し、保護者の支えとなり、子どもの最善の利益を追求できる保育者を養成する。 ・修得単位が少ない学生・欠席の多い学生、を早期に見つけ、意欲をなくさないようにし、一人一人が充実した学生生活を送り、成長と自立ができるように教職員と協働しながら学習支援や生活支援を行っていく。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	○「規範の理解と専門職としての自覚」を重点に置いた授業を行い、保育者が遵守すべき、全国保育士倫理綱領の読み込みをし、子どもの最善の利益やその他の8項目を理解させていく。知識としての理解に加え「自分事」としてとらえるための事例を通して判断基準を養うように努める。 ○模擬保育授業においては、ルーブリック評価を取り入れ、自己評価・他者評価を行い、振り返り・課題・気づきを重点にした授業を行い、保育実習に反映できるようにした。 ○GPA 下位の学生には、個別支援指導を行う。指導案の作成・実習日誌の記録の取り方等特に苦手意識や困難感をもつ学生に対しては個別指導を行うなどできる限りの学習サポートを行う。 ○絵本士資格を学生に取得させることは、将来保育者を目指す学生にとって有意義であるため、絵本士資格を取得するように促していく。認定絵本士養成講座カリキュラムに関するガイドラインに基づき、多様なジャンルの絵本の紹介、作者の思い、出版者の方の立場などの学びを深めるようにゲストスピーカーを迎える。
授業以外 (学生支援等)	○教育・保育実習に先立ちインターンシップの機会や子育て支援事業への参加など実施し、学生たちが現場で働くイメージを膨らませながら、免許取得に意欲が持て保育士養成の理解が深まるようにする。 ○学生が主体的に「ぶんぶんひろば」を開催できるように「子ども学科の時間」を有効に活用し、安全・安心な環境構成の準備ができるようにサポートしていく。 ○高大連携授業では高校生に対しての授業など行い、保育者や教員への関心や魅力、など知ってもらえるように演習を交えた楽しい授業を行う。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	○保育実習や演習を通じて生きた倫理観を学べることができた。学生が直面する規範の倫理に対しては具体的な助言を行うことで専門職としての自覚を高めることができた。 ○模擬保育では、自己評価・他者評価をすることで、自らの保育実践を見つめることで新たな気づきを見出すことができた。学生からは「学生相互の評価をしたことで自らの保育を改善できた。」という声が多かった。 ○保育実習においては、子どもだけでなく親や様々な職員さんと人間関係を築いていく必要
----	--

	がある。社会人としての接遇マナーが求められるため、人と接する時のマナーを今後、もう少し取り入れていく。 ○絵本士の授業を受ける前の学生アンケートでは「絵本が好き」とか「資格を取りたい」など応えていたが、15回の講座後では、「子どもも大人にも、もっと絵本の魅力を伝えたい」「お話し会を企画したい」「絵本への関心が一層深まった」などが書かれていた。学生は絵本に対する意識や考え方が変わり、子どもだけでなく保護者や地域にも伝えたいという気持ちが高くなった。
授業以外 (学生支援等)	○定期的な面談を含め、呼び出し面談、実習などの不安解消面談、学習支援など学生生活全般についての悩みや不安などを聞き、随時対応してきた。学生理解を深める大切な場となり、学習意欲の向上が図れた。 ○公務員就職試験合格者全員に対して、仕事への不安軽減のサポート面談を行った。個々に様々な不安を抱えていること、また、安易に考えていること等もわかった。誰もが生き生きと働けるように、現場での経験をいかしたアドバイスを行った。学生は、仕事に対する責任感を感じながらも保育者としての仕事に期待を持ったのではと思った。 ○ぶんぶんひろば開催は、安心・安全な環境構成など、授業で学んだ知識・技能をフルにいかすことができる実践の場となった。また、「ながはまコミュニティカレッジ学園祭」にボランティアとして参加したことは充実感を味わい、保育士への道への意欲がより高まった。 ○高大連携（北星高）での授業を通して「保育実習への心構え」などの授業を行った。

5. 目標（今後どうするか）

授業	○「保育士倫理綱領」の理解につとめ、規範意識と専門職としての自覚を養っていく。 ○保育者の道を志し、入学してきた学生の潜在的な力を引き出せるように、そして免許取得につなげ保育現場で活躍できるように、一人一人にそった学習支援をしていく。また、実習に関わる教員と連携して学生への学習支援において協働していく。 ○保育者としての専門性の理解を促し、子どもの保育だけでなく「子ども家庭支援」の重要性を理解させていく。 ○意欲の持続向上を図るために、実習の振り返りを少人数、あるいは個別に丁寧に行っていく。
授業以外 (学生支援等)	○保護者支援は保育者に課せられた責務である。本学の子育て支援事業「ぶんぶんひろば」は、唯一、子どもや保護者と関わることによって子どもの成長・発達を実感する場である。今後も、定期的に子どもや保護者と関わることで学びの意欲を高め、自信をもって実習に臨める機会をつくっていく。また、「ぶんぶんひろば」だけでなく地域の子育て支援の現場にボランティアとして入れる機会をできるだけつくる。

6. 記載内容に関する根拠資料

- | | | |
|--------------|----------|-----------|
| ①令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | シラバス |
| ②令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 科目別成績分布状況 |
| ③令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 担任一覧表 |
| ④令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 委員会構成名簿 |
| ⑤令和7(2025)年度 | 滋賀文教短期大学 | 組織図 |

令和 7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7 月 1 日 / 年度末 2 月 27 日
氏名	小林 雅彦
子ども学科	教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
国語科概論	子ども	1
算数科概論	子ども	1
算数科教育法	子ども	1
道徳の理論と指導法	子ども	1
教職実践演習	子ども	2

②担任制度

担任（1 年生）		担任（2 年生）	
----------	--	----------	--

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	委員
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	担当
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ (無)
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	・専門的知識や実践的指導力を身に付けさせるため、実践事例や具体的な教材等を用いた授業を工夫し、個々のよさを引き出し、育成と向上に努める。 ・教科教育法では、指導案の作成と模擬授業を積極的に取り入れ、実習や現場に出たときに対応できるように努める。その中で、子どもの思考や行動を具体的に描き、それに応じた指導や支援ができるよう、個の学びに焦点を当て、実践的な教師の育成に努める。 ・指導要領の主旨や現場が抱える課題などについて、新聞記事、雑誌等を資料として活用した授業を推進する。また、インターネットなどを活用し、保育士や教員になるための学生の意欲や社会で求められている汎用的な資質などについて指導し、校・園での実習や就労時の心構えや実践力を身につけさせ、資質の向上に努める。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	・概論では、具体的な教材や資料等を使って、体験や作業等を取り入れ教科の内容がよくわかるようにした。 ・教科教育法では、指導案を作成させ模擬授業を取り入れ、指導者と子どもの両面の立場から授業を見られるようにした。指導案のポイントについては、資料や子どもの思考や行動を具体的に描けるように心がけた。 ・指導要領や現場が抱える課題などについて、新聞記事などを資料として活用し、思考力を高めるような工夫をした。
授業以外（学生支援等）	・授業の初めや終わりに採用試験や学習などについて、相談を受けた時にアドバイスができることがあれば、しっかり話を聞いてするようにしている。 ・学科会議で学生の動向を確認し、課題のある学生がいれば、その対応を意識しながら授業等を進めている。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	・できる限り自分で考え、表現することを意識して取り組んできた。それによって、自分の考えや指導案を書く力は向上してきている。特に指導案については、小学校指導要領解説を読み、指導する上で何が大切かを知り、具体的な方法を自分で考えることにより、授業を受ける子どもたちが「考え」「判断し」「表現する」学習へと変わってきている。また、授業での発問や板書など具体的に指導することで、「授業の中でどうすればよいかが具体的に学ぶことができた」と学生に評価されている。
授業以外（学生支援等）	・今年度の受講者は真面目な学生が多く、ほとんど欠席もなく、課題に対してもしっかり取り組むことができていた。特に男子学生は、早くから採用試験に対しての意識も高く、学習方法などについて、アドバイスなどをしてきた。 ・交通事故に遭遇した学生がおり、体調等も気遣いながら授業を進めてきた。

5. 目標（今後どうするか）

授業	・2年生の学生が保育士や教員に向けてきちんと力をつけていけるように、できるだけ実践的な授業をしていきたい。教職実践演習、基礎力Ⅱなど、実習の場での体験も生かして、学生自身が授業に主体的に取り組めるようにしていきたい。
----	--

	・児童へのみとりと対応を重視し、個々の活動や学びに細やかに対応していける学びの充実を図っていきたい。
授業以外 (学生支援等)	・学生の進路や受験についての相談など、日々の授業態度などからみとり、できる限り適切なアドバイスができるように対応していきたい。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和 7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7 月 1 日 / 年度末 2 月 27 日
氏名	西松 秀樹
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	学生サポートセンター

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
発達心理学	子ども	1
基礎力プログラム I（初年次教育）	子ども	1
子ども家庭支援の心理学	子ども	2
子どもの理解と援助	子ども	2
教育相談	子ども	2
カウンセリングマインド研究	子ども	2
教職実践演習（幼・小）	子ども	2
教育情報処理 A	子ども	2
教育情報処理 B	子ども	2
子どもの心理学	国文	2

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会	委員	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG	委員	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会	委員長	教職実践演習運営委員会	委員
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	委員長

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	・保育者、教育者として必要な専門的な知識や技能の習得に向け、見通しを持たせ、具体例をもとに討論を行うことで、「主体的・対話的で深い学び」となるよう工夫する。 ・社会に貢献できる人材の育成に向け、講義や演習を通し、「使命感、倫理観」を身につけさせ、人生において主体的に学び、挑戦する契機にしていく。 ・基礎力プログラムⅠ（初年次教育）を通し、学生に必要な基礎的能力を育成するとともに、学生の長所を認め、キャンパスに明るい雰囲気を醸成していく。互いに力を合わせて卒業するという目標づくりに努める。 ・公認心理師の視点から配慮の必要な学生については、学生サポートセンターの関係教職員と情報共有し、不適応をおこさないようサポートに努める。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	① 主体的・対話的で深い学びにつながる授業 授業では保育や教育の事例から対応策を検討し、ディスカッションにより様々な考え方を取り入れ、深い学びにつながるよう目指した。カウンセリングの実習を増やし、保護者対応にむけた実践的指導力の伸長に努めた。 ② 「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」を高める授業 グループワークを通じた討論、PowerPointを活用した意見発表、カウンセリングスキルを活用した実習を取り入れ、保育や教育に求められる「コミュニケーション能力」や「プレゼンテーション能力」の向上に努めた。 ③ 教員としての経験を伝えることを通しての「使命感や倫理観」を高める授業 教職経験から得た知見を具体的に伝えることで、保育や教育を担う使命感や倫理観を育成することに努めた。教職のやりがいや喜びを伝えることで就職への意欲を喚起させた。
授業以外 （学生支援等）	①対話を通じた学生の状況把握 授業以外の場でも積極的に声をかけ、心身の健康状態の把握に努めた。配慮の必要な学生については、サポートセンターで情報交流し、援助できるようにした。公認心理師や学校心理士の研修を積極的に受講し、適切な心理学的支援の力量を高めるよう努めた。 ②スチューデントアワーを活用した学生の理解 イベントに参加し、学生との交流を増やし、キャンパスに明るい雰囲気を醸成するよう努めた。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	学生は主体的に授業に取り組み、積極的に発表するようになった。また、表現力が向上し、自信を持って意見を発表する学生が増えた。
授業以外 （学生支援等）	キャンパスに明るい雰囲気が醸成されている。このような雰囲気で学生生活の満足度を高めることが、学生の不適応状態を少なくすることに結びついている。

5. 目標（今後どうするか）

授業	保育士や小学校教諭として就職する割合を維持し、将来につながる資格と技能が習得できる授業を実施していく。早期に離職する学生が一定いるので、リアリティショックがないよう教育現場の状況を伝えていきたい。
授業以外 （学生支援等）	相談しやすい関係づくりを構築し、学生支援を通して、学生の満足度を高めていきたい。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 7 (2025) 年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 7 (2025) 年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 7 (2025) 年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 7 (2025) 年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 7 (2025) 年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和 7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7 月 1 日 / 年度末 2 月 27 日
氏名	野瀬 薫
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
教育原理	子ども学科	1
教育方法・技術論	子ども学科	2
理科概論	子ども学科	1
国語科教育法	子ども学科	1
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	子ども学科	2
生徒指導及び進路指導論	子ども学科	1
教職実践演習（幼・小）	子ども学科	2
教育実習（小）	子ども学科	2
基礎力プログラムⅡ	子ども学科	2
キャリア・デザイン	子ども学科	1

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	副委員長	広報委員会	
認証評価準備委員会	副委員長	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	副委員長
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会	委員長	授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	委員長
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し向上心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	子ども学科教員の一人として、カリキュラムマップ等に則り、担当する教科を責任を持って指導すること等を通して、「教育学的専門の知識」及び「教科専門の知識」をしっかりと身に付けた人間性豊かな学生を育成できるよう努める。 1 子ども理解の深化…学生が子どもをより深く理解し、適切な支援ができるよう努める。 2 実践力と理論の往還…教育・保育現場で即戦力となれるよう、理論的知識と実践的スキルの両方をバランスよく身に付けられるよう努める。 3 人間性と倫理観の育成…教育者・保育者としての責任感、倫理観、思いやりを持った人材を育てるよう努める。 4 多様性と包摂性への理解…子どもや家庭の多様性を尊重し、誰もが安心できる教育・保育環境を築く力を身に付けられるよう努める。 5 協働と連携の姿勢…保護者、地域との連携の大切さを理解し、チームで子どもを支える力を身に付けられるよう努める。 6 生涯学習者としての姿勢…卒業後も学び続ける意欲を持ち、教育・保育の質向上に努力する人材を育てるよう努める。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	・講義・演習においては、パワーポイント等を用いた資料により視覚的にも理解を深められるように配慮する。講義の要点等をとらえやすくする。 ・講義中にペアや四人グループで意見を交流できるようテーマに沿った「問い」や「ワーク」を多く設定する。 ・講義のまとめの段階で、「本時学んだこと」「本時考えたこと」を自分の言葉で表現し、ペアで意見交流を行う時間を設ける。 ・講義後の「振り返りカード」の記入を通して個別の質問を受けやすくし、学生の質問や感想に対して、できるだけ丁寧なコメントを心がける。 ・特別活動及び総合的な学習の時間の指導法をはじめ、可能な範囲で多くの体験活動を取り入れるように努める。 ・教科教育法の授業のみならず、他の講義においても可能な限り ICT 機器を活用する。
授業以外（学生支援等）	・学生懇談会等の機会を有効に活用し、学生の思いをくみ取る。 ・学生から相談を受けた際には、同僚とも相談の上、チームとして真摯に対応する。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	・授業中、熱心に講義メモをとる姿が見られ、講義後の「振り返りカード」を見ても、学生の理解が深まったと思われる。 ・講義のまとめの段階で行った「本時学んだこと」を自分の言葉で表現し交流し合う活動により、「振り返りカード」記入の際にも自分の考えを適切に表現できる学生が増えた。 ・「生徒指導及び進路指導論」の講義において、生徒指導上の課題に対する事例研究やワーク等をより多く取り入れた。今後も事例研究や発展的な学習課題等を適切に提示し、学生が意欲的に学ぶことができるように努めたい。 ・前年度の講義では「あなたは、この授業の予習・復習など自主学習に1週間あたりどのく
----	--

	らいかけましたか」という問いに対するポイントが低かったため、「教育原理」等の講義において復習用プリントを作成し配付した。しかし、今年度もあまり大きな改善は見られなかった。
授業以外 (学生支援等)	・学生懇談会等の機会を有効に活用し、学生の思いをくみ取るように努めた。学生から相談を受けた際には、学科のメンバーと相談の上、チームとして真摯に対応するように努めた。

5. 目標 (今後どうするか)

授業	・今後も、ペアワークや学生同士の意見交流が活発にできる講義を目指し、学修テーマに迫る「問い」や「ワーク」の内容を工夫し、より有意義な意見交流となるように努める。 ・今後も、講義のまとめの段階で「本時学んだこと」「考えたこと」を交流する機会を設け、自分の学びを自分の言葉で表現し、発信できる学生を育てるよう努める。 ・今後も、「振り返りカード」等により学生の要望・思いをできるだけくみ取り、可能な限り丁寧なフィードバックに努める。 ・学生が、試験前だけでなく、日頃から意欲的に学ぶことができるように、予習・復習の課題や発展的な学修課題を適切に提示していきたい。
授業以外 (学生支援等)	・担任制、個別支援、先生方との連携により子ども学科全体で、学生を支援していけるよう努める。教職実践演習運営委員会等、委員会の活動等についても、本年度の反省を生かしより充実した活動となるよう努める。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和 7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 2 月 27 日
氏名	三岳 貴彦
学科	子ども学科 准教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
社会的養護Ⅰ	子ども	1
社会福祉	子ども	1
子ども家庭福祉	子ども	1
基礎力プログラムⅡ	子ども	2
社会的養護Ⅱ	子ども	2
子育て支援	子ども	2
施設実習	子ども	1

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会	委員	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会	委員長	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会	委員	授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	担当

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	・保育士の専門的な知識と技術を習得し、職業倫理が陶冶される保育者を養成する。 ・演習科目では主体的且つ能動的に学習出来るようアクティブラーニングを取り入れ授業作りを工夫する。 ・担当科目が未就学児だけでなく18歳未満の児童を対象とした福祉の問題を取り扱うことから、児童の取り巻く問題と福祉による支援について関心が持てるよう取り組む。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	・個別指導 施設実習指導のレポート課題(期末試験ではなく通常授業回の時期に課したレポート)は提出後、添削で赤を入れたものを学生に返却し、併せて学生の文章で良い点、悪い点をそれぞれ伝え、学生の文章力向上を目指す。 ・成績の可視化 社会的養護Ⅰ、社会福祉、子ども家庭福祉では、1年生開講科目であり、学生はそれぞれの分野の専門知識をまず身に付けることが必要な為、期末試験の結果は成績確定後に開示する。学生一人一人が自分の実際の学力を理解できるよう工夫している。 ・アクティブラーニング 社会的養護Ⅱ、子育て支援では演習科目ということもあり、グループワークでのディスカッションを実施し、主体的な学びにつながる様、工夫する。 ・ゲストスピーカーの活用 社会的養護での里親家庭の支援について、社会福祉法人こばと会の協力を得て、里親支援専門スタッフと里親による講義を開いている。里親支援に関しては実習でも学べない領域の為、里親当事者と支援者による話を直接学生に伝える工夫をしている。
授業以外 （学生支援等）	・レポート等添削指導 主に施設実習指導では、実習施設への提出書類も多いことから、学生に授業時間以外での添削指導を行う。併せて学生の実習等勉強での悩みがあれば話を聴く。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	・個別指導 レポートを添削し、返却時に個別指導を行った。教員として気づいた学生の文章作成での課題や文章のクセといった事を個々に話すことができ、学生の困っている部分がかかることにつながったし、実習での日誌作成での助言指導にもつながった。 ・成績の可視化 期末試験の結果を春学期科目は秋学期授業時に、秋学期科目は令和8年2月12日実習ガイダンスの機会を利用して受講学生に開示している。開示した科目については、学生は実際の点数を見ているので納得はしていると思う。実際に総合成績について意見が出ることはない。 また、実際にテストを添削すると色々な傾向がある。「誤字が多い」、「覚えた専門用語がうる覚えだったため、正式名称が書けず間違えた」等。テストの開示の際に学生一人一人の傾向・クセといったものも併せて説明し、「テストの結果」だけを伝えるのではなく、「どうすれば自分がこれから伸びるか」と今後の改善ポイントを話している。
----	--

	・アクティブラーニング 教員の話聴くだけでなく、学生自身がそれぞれの意見を出し合うことで主体的な取り組みに繋げることが出来た。又、学生の意見を書いたペーパーが授業中の提出物となるが、教員として目を通し、次回授業で「前回授業の振り返り」として学生の意見を匿名にした形で発表、共有する機会も設けた。教員としてグループワークでの各学生の動きと意見をチェックしていることをメッセージとして伝えており、結果としてどの学生も「グループワークだから自分は楽しんで誰かグループの学生に任せて作ってもらおう」と手を抜く様な悪質な行為は起きず、学生間で協調・協働する姿勢があったと思う。 ・ゲストスピーカーの活用 学生は子どもに関心が注視しがちだが、「親(保護者)の思い」を直接聞くというのは実習でもあまり経験することはない。講義後にリアクションペーパーを課しているが、学生にとっても当事者の声を直接聴くのは刺激になっているとみられる。 また、リアクションペーパーはコピーをこぼと会にも送っている(こぼと会に送ることは学生には事前に説明済み)。学生の立場として、職員に直接送る感想文でもあり、文章作成が日頃よりかなり気を付けて文章を記載していることが読み取れる。
授業以外 (学生支援等)	・レポート等添削指導 施設実習の提出書類の添削指導では実習先がそれぞれ違うため、指導内容も変わってくる。授業以外でも個別面談の時間を設け、個々に助言指導した。 ・個別対応について 2年生の進路相談に応じた学生もあり、その都度相談対応した。そのうちの1件は、就職したいと考える企業からの求人票がなく、結果として就職活動が進んでいない状況だった。学生からの相談を受け、就職活動を進めるための人事担当者への話の進め方・コミュニケーションの取り方での具体的なやり取りについて助言し、その後実際に就職活動が進み内定につながった。

5. 目標 (今後どうするか)

授業	・社会的養護Ⅱ、子育て支援でのアクティブラーニングは継続し、より良い演習課題を設定できる様、取り組む。
授業以外 (学生支援等)	・次年度は2年生のみとなるので、進路相談に細やかに応じられる様にしたい。

6. 記載内容に関する根拠資料

①令和7(2025)年度	滋賀文教短期大学	シラバス
②令和7(2025)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況
③令和7(2025)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表
④令和7(2025)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿
⑤令和7(2025)年度	滋賀文教短期大学	組織図

以上

記入日	年度当初 7 月 1 日 / 年度末 2 月 27 日
氏名	古川 礼子
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
保育者論	子ども	2 年
保育の計画と評価	子ども	2 年
保育内容 (言葉)	子ども	1 年
保育原理	子ども	1 年
保育実践演習	子ども	2 年
児童文学	子ども	2 年
教育実習指導 (幼) 1 子	子ども	1 年
教育実習指導 (幼) 2 子	子ども	2 年
教育実習 (幼)	子ども	2 年
教育実習 II	子ども	2 年
絵本の世界 I (子)	子ども	1 年

②担任制度

担任 (1 年生)	有	担任 (2 年生)	有
-----------	---	-----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長	担当	子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材育成
個人の教育理念・目標	・保育士や幼稚園教諭の職務に必要な専門的知識や技能を習得させながら、模擬保育の中でも振り返りを重視し、多面的に物事を考える力や自ら改善点を見出す力を育成する。 ・計画どおりにいかない時こそ、子どもの姿や状況に応じて、臨機応変に対応できる実践力の向上を図る。 ・子どもの人権を尊重し、子どもの心の声を聞き取り、一人一人の子どもの最善の利益を追求する保育者を養成する。 ・保育者は、組織やチームで協働していくことが必要不可欠と考えることから、グループワーク等を通し、コミュニケーション力の向上を図る。 ・多様な背景をもつ子どもの保護者支援について、家庭背景の多様性や子どもの発達や特性の理解などについて、基礎知識を高めることを通して個別対応力の向上を図る。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	・保育者は人を育てる仕事であることから、まずは、自身の自己肯定感や自尊感情が高まる取り組みとして、授業内でもワークやグループ活動の機会を多く取り入れた。自分の意見として胸を張って表現し、相手の意見も聞き入れながら、グループとしての成果や課題を見出せるよう指導や支援に努めた。 ・模擬保育時の振り返りシートを活用することで、友だちの意見や改善点に気づく機会となり、保育の引き出しを増やすことにつながった。 ・一人一人の子どもの成長過程に、家庭環境や社会背景が大きな影響を及ぼす現実があり、園が地域の子育て支援の拠点であることも認識しながら、乳幼児理解が図れるよう指導した。
授業以外（学生支援等）	・「ぶんぶんひろば」の実践において、計画や準備段階から、学生の意見を積極的に表現できる場をもち、一人一人の良さが発揮できる活動内容や役割を学生自身が決定できるよう指導や支援に努めた。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	模擬保育では、実際の保育の場面を想定しながら指導方法を試すことで、保育者としてのスキル向上が養われた。また、遊びを通して、予期していない状況やトラブルが発生することもあり、これらに対処する力や柔軟さを身に付けることができた。 グループワークでは、日常で交流が見られない学生同士も、役割を決めたり協議を繰り返したりして、グループ毎に成果や課題をまとめ、発表に至る過程の中で、コミュニケーション力の向上が図れた。
授業以外（学生支援等）	グループで効率よく作業を進めるためには、時間配分を考慮し、管理していく能力が必要になる。「グループ内で出た意見をまとめ、3分で発表する」等の課題を出すと、はじめはどのグループもうまくいかず四苦八苦の姿が見られた。しかし、授業内でそのような経験を増やしていくと、時間に対する意識が高まり、タイムマネジメントのスキルアップにつながった。時間の管理は、他の多くの場面でも活用できる大切な要素であると感じている。

5. 目標（今後どうするか）

授業	・保育者を目指す学生の意欲を持続向上させながら、倫理観に裏付けされた専門的知識・技能を身に付け、保育現場で求められる実践的指導力のある保育者を養成する。 ・保育者としての責務を理解し、他者と協働・連携し、保護者の支えとなり、子どもの最善の利益を追求できる保育者を養成する。
----	---

	・修得単位が少ない学生や欠席の多い学生を早期に見つけ、意欲をなくさず、一人一人が充実した学生生活を送り成長と自立に向けての学習支援や生活支援を行う。
授業以外 (学生支援等)	・滋賀県による保育士支援会議・保育士人材確保部会、保育協議会等の会議に参加し、得られた最新の状況を学生支援や就職相談等に活かす。 ・担任制、個別支援、学科内連携において学生を支援する。

6. 記載内容に関する根拠資料

①令和 7(2025)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和 7(2025)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和 7(2025)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和 7(2025)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和 7(2025)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上

令和 7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 日
氏名	山田 明日美
子ども学科	講師
学科以外の兼務職	学務課学生支援担当キャリアデザイン係、学生サポートセンター

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
音楽Ⅰ（ピアノ）	子ども	1
音楽Ⅱ（ピアノ）	子ども	1
音楽Ⅲ（ピアノ）	子ども	2
音楽Ⅳ（アンサンブル）	子ども	2
幼児と音楽表現	子ども	1
音楽科概論	子ども	2
音楽科教育法	子ども	2

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	委員長
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会	委員	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG	委員	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	委員
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	担当
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	音楽における専門的知識や表現力を身に付けさせるため、個人のレベルに応じた丁寧な指導を心掛けるとともに、授業内容の工夫と改善を図る。 学生支援においては、学生に寄り添い、できる限りサポートできるよう努める。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	ピアノの授業においては、昨年度に引き続き、個々のレベルに応じた丁寧な指導に加え、保育者・教育者としてふさわしい弾き歌いができるよう、ピアノの技術の向上だけでなく、歌声や表情なども含めて豊かな表現力を身につけることを目指して指導してきた。 幼児と音楽表現の授業においては、今年度は1クラスにまとめて授業を行ったため人数は多かったが、今までの経験を活かして事前指導をしっかりと行い、効率よく授業を進められるようにし、最後のグループ発表も計画的に行った。 音楽科概論の授業においては、今年度初めての科目だったため、各回シラバスの内容に照らし合わせながら授業計画を細かく行ってきたが、内容を詰め込みすぎて次の授業に押ししてしまうこともあったため、来年度は内容の組み換えや進め方などの工夫が必要となる。 音楽科教育法の授業においては、学生のニーズに合わせて臨機応変に授業内容を工夫し、音楽科概論での演習を活かした内容の指導を行った。
授業以外（学生支援等）	今年度も学生の要望に応え、放課後や空き時間など授業以外の時間にもピアノのレッスンを積極的に行ってきた。 また、学生の悩み相談など話を聞く時間を作り、できる限り学生のサポートに努めた。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	昨年度までの反省を活かしていくことで、各教科改善しながら授業を進めることができた。学生のレベルに合わせて授業内容を工夫していくことで良い成果につながった。
授業以外（学生支援等）	学生に寄り添うことは重視してきたが、教員が学生の人間関係の間に入りすぎず、学生が必要な時にサポートすることが大切だと学んだ。

5. 目標（今後どうするか）

授業	今年度の反省を活かし、学生のレベルに合った授業内容の更なる改善と工夫をしていきたい。特に時間配分に関しては十分に検討してから授業に臨みたい。
授業以外（学生支援等）	引き続き学生との信頼関係が作れるよう、学生との関わりを積極的に増やしていきたいが、サポートすべき部分についてはよく考えていきたい。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和 7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7 月 1 日 / 年度末 2 月 27 日
氏名	日置 佑輔
子ども学科	講師
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	子ども	1
キャリアデザイン	子ども	1
健康とスポーツ	子ども	1
体育科概論	子ども	1
役立つ文章表現	子ども	1
体育科教育法	子ども	2
教育情報処理	子ども	2

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	委員
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会	委員	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会	委員	授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会	委員	学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	○ 教育を通じて地域社会で活躍できる人材を育成するため、基本的なコミュニケーション能力や問題発見・課題解決能力を身につけることができるよう指導する。また、教育に必要な専門的知識および技能を身につけ、実践力が身につくよう授業方法を工夫し指導を行う。 ○ 学術研究、教材研究を継続的に行い、自らの知識および授業内容をアップデートする。また、教育について省察と改善を繰り返し、優れた授業・教育を実践できるよう努める。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	○ 問題発見・課題解決力を身につけるためには、その背景にある基本的な知識が必要不可欠となる。このため、授業ではまず基本的な知識についての解説を丁寧に行い、知識の獲得を促した。その後、グループワークやディスカッション、模擬授業等の学生が主体となる活動を実施し、獲得した知識等を活用し、さらに深められるよう工夫した。 ○ 「体育科概論」「体育科教育法」の授業では、体育科教育に関する基礎理論や各運動種目の基本的な技術について身につけさせるとともに、最新の教材を用いた授業実践例や、ICTを活用した授業実践例を紹介した。また、授業内では教員も含めてディスカッションを行い、体育授業についての理解が深まるよう工夫した。
授業以外 （学生支援等）	○ 担任面談および面談時以外にも、できる限り学生との対話や相談等への対応を行い、必要な支援を講じることができるよう努めた。 ○ 学会大会への参加および学術研究・教材研究を継続的に行い、体育科教育および運動・スポーツに関する最新の研究動向を調査し、自らの知識および授業内容のアップデートに努めた。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	○ 基本的な知識の獲得と、その後のグループワーク等で獲得した知識を深めるという授業方法については、グループワークで解決すべき課題について明確に捉え、解決に向けた密度の高い活動ができていたことや、授業アンケートにおいて授業内容の理解度の値が高かったことから、授業の内容について深く理解を促すことができた。 ○ 授業実践例を紹介だけに留めず、ディスカッションを行うことで、各教材や教具の強み・弱みなどについて検討し、将来体育授業を実践する際の具体的なイメージを持たせることができた。
授業以外 （学生支援等）	○ 担任面談や相談時には、必要に応じてアドバイスを行った。 ○ 運動・スポーツおよび体育に関する最新の研究を盛り込みながら、授業内容をアップデートし授業を実施した。

5. 目標（今後どうするか）

授業	○ 授業方法については、上記の方法を今後も上手く活用しながら、学生の理解を促すことが出来るよう、また実践力を身につけることが出来るように工夫する。
----	---

	○ 授業内容（資料）については、できる限りデータやイラスト等を活用し、より理解しやすい資料を作成できるよう努める。
授業以外 （学生支援等）	○ 引き続き、面談や相談等において学生との対話を続け、必要な支援を講じることが出来るよう努める。 ○ 学術研究・教材研究についても引き続き取り組んでいく。特に、学習指導要領の改訂が近く行われる予定のため、最新の動向を注視しながらより良い授業・教育を提供できるよう取り組んでいきたい。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 7(2025)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 7(2025)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 7(2025)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 7(2025)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 7(2025)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上